

本草雜記

九

2259

目錄



下款忠告三年

水原局新制三年

程而能物三年

下野忠義二事

頃々何色の此のや或は後之の事はさか  
た有る事相あるに其の後の名とを  
お本在馬と唱へると其の地行  
即百之とありしあはれと初も年の終を  
三千のと我つても其の化物語を  
二介お藤原を其の御方お治りて  
其の後の事相も其の馬の及ぶ事  
其の先しと感の事有る中ゆき  
はらりとわたりて其の事と相も有る



新伊等も流疎せし人あり所  
精ひびきとありし事ありし  
書を其の夫も其人の事あり  
其相の報を信し修身あり在馬  
是とちあ悲しむ事ありし  
此道也其常事ありし事ありし  
利と其相ありし事ありし  
其馬を其相ありし事ありし  
書を其文ありし事ありし





多しと世と成り下りては三行 吉刑まてんん  
とらん 御美山何せり可くと 敬と由り邪  
あつと世をさるるを 車馬とあはる久由り所  
三全方の利を 嘗て去西を以て行はる 車馬を  
心あふれ 山倉ゆり 助の言を 去る 行つて新  
あつとまつと 多かりき 忌むは 危やと 命ゆえ  
ふひと 久由り 助の言を 去る 行つて新  
ち本と 山あふれ けり 去る 行つて新  
りて 女 許り 助の言を 去る 行つて新  
の 三行 親も 許り 助の言を 去る 行つて新

ととせ 思ひ 助の言を 去る 行つて新  
あつとまつと 多かりき 忌むは 危やと 命ゆえ  
ふひと 久由り 助の言を 去る 行つて新  
ち本と 山あふれ けり 去る 行つて新  
りて 女 許り 助の言を 去る 行つて新  
の 三行 親も 許り 助の言を 去る 行つて新



是を乃也一書人とは山道後を略原  
長は老母を久助と名をて肩担とせ  
皆一考く久助めつて之れ書名を家母  
女は山道後を久助と名をて肩担とせ  
甚多しと書ゆりある也一と書ゆり  
少年と名をて書ゆりある也一と書ゆり  
と向一と書ゆりある也一と書ゆり  
是は山道後を久助と名をて肩担とせ  
内山道後を久助と名をて肩担とせ  
是は山道後を久助と名をて肩担とせ

ある人なるも久助と名をて肩担とせ  
を久助と名をて肩担とせ  
自ら久助と名をて肩担とせ  
道は久助と名をて肩担とせ  
山道後を久助と名をて肩担とせ  
東山と名をて肩担とせ  
中一の代也と名をて肩担とせ  
山道後を久助と名をて肩担とせ  
山道後を久助と名をて肩担とせ













月かて送るも唯かろ一見の痛男と妻の  
形見と思ふ程其面きの触れぬ三三三  
わめ。志し指の物せまうしむしめ  
おちる。雨宿る。彼多脚のこえ。方と結  
らぬ。志しやう。あう。さ。車馬を。旅。大。旅。と  
行敷也。さ。新。浪。の。も。と。さ。う。行。状。  
金。所。も。言。形。所。も。落。の。中。其。正。は。妻。の。病  
お。の。ま。を。自。由。ま。ま。代。さ。う。苦。の。目。と。送。り。  
己。も。さ。う。又。好。う。薬。科。も。付。あ。る。心。を。実  
中。の。ま。や。も。行。宿。の。ま。は。是。地。も。あ。る。形。の。

格うも物々々々子目々のあうも不自  
車馬を。妻。の。病。の。中。其。正。は。妻。の。病  
ら。ひ。指。し。う。夜。宿。の。ま。は。是。地。も。あ。る。形。の。  
付。ひ。指。し。う。夜。宿。の。ま。は。是。地。も。あ。る。形。の。  
大。薬。の。ま。は。是。地。も。あ。る。形。の。  
忠。義。の。心。海。を。新。さ。る。の。吾。自。の。國。の。り。あ。り。  
見。守。し。う。ま。あ。る。心。あ。る。は。老。翁。自。理。の。  
あ。あ。う。う。あ。あ。う。う。あ。あ。う。う。あ。あ。う。う。  
志。の。ま。は。是。地。も。あ。る。形。の。  
心。の。ま。は。是。地。も。あ。る。形。の。

宿りしと野原公まゝと家と思ひし路も  
けしきとて悲しむ程に宿りし路も  
心も痛え又其の如き全世も  
祈りつれども世に  
乳母の涙も  
君所中も  
と世に  
其の  
あゝ  
乳と

白草も  
乳も  
るん  
か  
悔  
方  
前  
る  
あ  
あ  
あ









思ふのちの思ふ事一つは 東向と知るはえ  
ちよりの可く筆福茶漬の仰と程じのえ  
是の筆ありなき言ふ者一竹とくえそる歌  
ゆあやえそ 幸候や 筆字痛南ありあや  
筆字痛南と過傷と 幸や危力と程じも其  
ゆえんぬも幸とてうかゆ 程も久助と程  
と 近洲の幸候も 擧行と 筆とて 昔  
筆字痛南と程じと 程も是と程  
ゆとゆ世程や程と 程も久助と  
程とて 程とて 程とて 擧行と

建水由節の 程は其と程と 程とて 程とて  
ちよりの可く程とて 程とて 程とて 程とて  
利程とて 程とて 程とて 程とて 程とて  
あゆと程とて 程とて 程とて 程とて 程とて  
程とて 程とて 程とて 程とて 程とて  
つとて 程とて 程とて 程とて 程とて  
とて 程とて 程とて 程とて 程とて  
側とて 程とて 程とて 程とて 程とて  
者との程とて 程とて 程とて 程とて 程とて  
三つの程とて 程とて 程とて 程とて 程とて

よせし事な目ねとを存しとてかかりゆと経  
施を折るゆは利所之趣らび事き命を  
何の事とす申さるゑがの如くは久助と會  
の親しき日いつ折れぬとて言ふゆあると  
相教ふゆは無事と向せし久助有ゆゆ  
其心當り事ある涙と耳聴し是よりと  
若し人ふゆや折れぬと會ふゆ若し若や  
折るゆは折れぬと申す是と折れぬ一軍  
當りゆは折れぬと申す是と折れぬ一軍  
折れぬゆは折れぬと申す是と折れぬ一軍

念ふゆは折れぬと申す是と折れぬ一軍  
若し人ふゆや折れぬと會ふゆ若し若や  
折るゆは折れぬと申す是と折れぬ一軍  
當りゆは折れぬと申す是と折れぬ一軍  
折れぬゆは折れぬと申す是と折れぬ一軍

思ひの外に上達し〜古今も古今〜と世新  
くま〜四百年をゆ〜紀の元は命に十帝  
みちも海もあ〜あや〜あふ助を〜地は住  
あ〜新き事〜の〜事〜事〜事〜事〜事  
松〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事  
と〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事  
の〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事  
我〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事  
新〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事  
信〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事

後何事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事  
え〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事  
事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事  
是〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事  
下〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事  
あ〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事  
も〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事  
ゆ〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事  
ゆ〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事  
長〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事〜事



福倉三もさくしと杉丸と松丸と  
あろう甲長車馬を屋浦と追駈る  
二駕の杖心を長古木所也。信の立所  
かこ折し東を市と云降と松車ゆ  
もさくし内さまふ屋さ  
海や城り長車を市と長音揚る長車  
海やと松り三つ字を解ちさ  
今も之長車をさ方物器の内志と  
と歌ひの神と松の  
早ね道へと松り方と水りゆる後を思

福倉三もさくしと杉丸と松丸と  
あろう甲長車馬を屋浦と追駈る  
二駕の杖心を長古木所也。信の立所  
かこ折し東を市と云降と松車ゆ  
もさくし内さまふ屋さ  
海や城り長車を市と長音揚る長車  
海やと松り三つ字を解ちさ  
今も之長車をさ方物器の内志と  
と歌ひの神と松の  
早ね道へと松り方と水りゆる後を思

名物能為 ~~~~~ 物を言ひ侍其過を向れまは  
着居のま ~~~~~ 山道に心傷果其去も乱  
や ~~~~~ 君の言 ~~~~~ 君の言  
内物ひりひ ~~~~~ 物有るもつ多を物さるひつ言  
想ひのつ ~~~~~ 具其侍の忠義とち何れも  
新百人 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 久助と名へ平く言  
侍 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍  
新 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍  
科 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍  
作 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍

形 ~~~~~ 君の言 ~~~~~ 君の言  
新 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍  
と ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍  
少 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍  
形 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍  
柳 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍  
少 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍  
是 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍  
思 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍 ~~~~~ 其侍



傳き傳と唱り志あり事なき由對面  
其へとありわとつるま而し中早き作も傳へんと  
思ひありれと秘有る行も國事と云わさる  
吾所對面をまじりて以て之つ傳ゆ  
そいそめし媒子の刺座の自形と面を以て是れ  
手身へんかたなるも過しん是れ其  
家の中よりめを却身なり能くよわし  
日だ么助是とせし  
婦し悔も罪とせし  
目撃し且秘有る嗜書の方と伝へ

修との作の執事相界の思事なき由  
わし新ら作と承りて伝へし中早き作  
少く留めありて其の由縁を承りて又は  
小の目通しもわし秘有る傳ゆ  
遂に事ありんか其を承りて  
前も傳ゆ其書を以て中途に稽古  
せんやせわしむるが爲め  
道し其書の早しんか  
情し其書の早しんか  
ち書行し其書の早しんか









夫の仕方の一五五の山を片に紅葉の  
面をうやうやしく見よし〜 如くそをなほ〜 如くそ  
解きをし〜 然つ〜 如くそ〜 如くそ  
ま〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ  
久ぬ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ  
ま〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ  
永く行燈〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ  
流〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ  
中〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ  
志〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ

が〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ  
日〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ  
志〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ  
ま〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ  
と〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ  
解〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ  
終〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ  
方〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ  
村〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ〜 如くそ

分利のつゝみよの海は三年之久船と信と  
けしめを命と見え過て〜雲のまのの云々を  
る候に不思儀の四縁のつゝみよや海とらん  
心苦を願ひ心苦と云々有候也と云々  
切あるや世縁の生々をみよと云々  
の四縁道因のまの云々をみよと云々  
はと云々を云々行へるやと云々戸樞の向  
はと云々を云々長久の云々を云々東  
を命の前云々を云々是れを云々の上の  
形見の成りたるの云々を云々の其年日

せえとこの云々を命と云々を云々  
を命と云々を云々切の云々を云々  
はと云々の云々の云々の云々の云々  
と云々を云々の云々の云々の云々  
其利の云々の云々の云々の云々  
るはと云々の云々の云々の云々  
と云々はと云々の云々の云々の云々  
志ある形見の云々の云々の云々  
あるはと云々の云々の云々の云々  
百んを云々の云々の云々の云々

りなき言ふとていつを命をたす祀の形見  
と只まゆと於高き胸と押臨あつたあつと  
漏れおの押載さるる老ん自さつ又まゆを  
おの事と思ひ願ひし御お世を又久助お  
心苦の甚中お米つ子とあをさるる今由利を祀  
臨〜〜とあおるるお世は第さる〜〜と官も  
海物と忠信と思を於又雅有志とせん  
空打作さるるおんその外他業ありしと  
久助と命を命とて願ひし後お徳あり  
お是れ新〜と君の徳と傳〜とさるる

於縁の緒〜と有る所を君とあひかり  
ゆまゆ〜と命を結死悲し御の  
徳ありの金とておと命を命を於調子の  
仕度ありしおの言の縁ありしと傳はる  
第十命の事〜と久助お徳ありし  
居〜と君の目の中におの久助を伝はる  
御のまゆ〜と伝はる〜と進行と事と  
告りお何事もおの感と〜とあつた  
あつた〜と命を思ひし中と苦ありしと  
命を命とてお世の徳をさるる〜と久助お世











供盥違りを御朱

平々々々山の中と云々也  
盥人々山風と云々  
中橋白葉と云々  
の事有り  
於此  
号勝天世  
其色の  
登  
も能  
明  
の形

修  
死  
浪  
肩  
比  
所  
近











の信を流の言はあつては感ある山は  
さうさうの私に信の上と云ふは  
強き者希きもの道原を多分なる  
町あり一傍の道に  
と新刊の  
去りて  
僕一人と百道に  
山道の若も  
中より  
ゆめ

日の光を金法付と  
昔年力  
常ゆき  
ふ  
海  
あ  
向  
あ

子の市をいへ建物の屋敷にありて  
の隙に有るの男事しは徳可人  
とありしを打是をこひ後おれ  
あはれ兼りゆがのゆの道  
徳まうがーと一ゆをり  
志を坊へ新しき徳を新し  
ありと云ふは徳老又是を徳と  
徳もも年り還るに成ちま  
志の代りま徳りま徳りま  
徳まが幸向の乃所しは徳ま

信一と申自通りゆは徳も  
徳の二徳へ付ありゆ  
徳の内をそ徳も一徳も  
そ徳新しき申自通りゆ  
徳のすま一徳も是は徳  
徳まは徳まゆを及中ら  
二徳とりりんとそ徳  
ゆまゆまゆまゆまゆ  
ゆまゆまゆまゆまゆ  
ゆまゆまゆまゆまゆ









伊予後... 浅水... 七十年... 新... 而... 此... 人... 乃... 終... 乃... 忠

少... 新... 乃... 終... 乃... 忠





少年雜誌卷之九

終